

SSTL

NO. 85 2024. 7. 16

# 職場参加ニュース

## 総会后初のワークショップ 職場参加の危機(ピンチ)をめぐり対話した!

6月16日(日)、越谷市中央市民会館で、NPO法人障害者の職場参加をすすめる会の定期総会を開催し、その後当会としては初のワークショップを行いました。

なお、総合同会は野島久美子さん、総会議長に選出されたのは吉田久美子さんと補佐として原和久さんです。

定期総会の冒頭には、越谷市の福田晃市長も見えて、激励を含む挨拶をいただきました。

定期総会では事業報告読み上げの代わりに、障害当事者たちが前に出てそれぞれから一言メッセージを行うのが恒例ですが、今年には議案の説明にいつもより時間を取り、なおかつ障害当事者の一言も行ったので、総会が時間オーバーとなりました。

採択された総会議案の新年度事業計画の冒頭は、次のように述べています。

「当法人の長年の取り組みは、職場参加に関する地域の協力関係や自治体による職場参加の施策など、周りの環境を変える上で大きな役割を果たしてきました。

しかし、それを担ってきた本部と現場という車の両輪のうち、とりわけ本部事業を担ってきた『職場参加ビューロー―世一緒』の退職障害者たちの重度

化や協力者の高齢化が進んでおり、それを機に『職場参加の危機』が顕在化している。

せんげん台『世一緒』では『職場参加をすすめるB型』の取り組みが試みられ、次世代の障害者達が地域、職場に参加し始めている。

越谷からせんげん台へ本部のバトンをつないでゆきたいが、制度の縛りがあり、完全な自主事業だった越谷と同じにはできない。

職場参加の理念とB型の持っている現実的効果とをどう組み合わせられるか、さらにはNPO法人という組織のままでよいのか、みんなで検証しながら『職場参加の危機』を乗り越えてゆかない。この1年は最後の猶予期間と位置付けて、取り組んでゆく。」

当法人始まって以来のワークショップには、会員を中心にすいごごカフェ参加者などをまじえ、多数の参加がありました。多岐にわたるアイデアや、会員になったそもその成り行きや思いなど、貴重な発言を共有できました。このワークショップをどう活かすか、チャンスに変えられるか、みなさんと共に考えてゆきたいです。



# ワークショップ「職場参加の危機(ピンチ)」を考える でなされた対話とは

総会后シンポジウムを行うのが恒例ですが、今年にはゲストを招かずワークショップ「職場参加の危機(ピンチ)を考える」を開催。会員や協力者の皆さん40名近くの参加があり、3つのグループに分かれ自由に語り合いました。初めての試みです。

ワークショップ全体の進行を埼玉県立大学名誉教授の朝日雅也さんにお願ひし、3つのグループそれぞれで理事、運営委員がファシリテーター(進行役)を務めました。

また、すいごごカフェの常連さん他の中から3人の方にご自身の体験やアイデアを積極的に提供していただく形で、リソースパーソンを務めて頂きました。

グループ1：有竹和子さん(これまで住まれたあちこちの自治体で住民サイドから協働作業を行った経験がある)

グループ2：山田裕子さん(越谷市民ネットの越谷市議)

グループ3：八藤後忠夫さん(文教大学で特別支援教育の教授を定年退職)

## グループ1の発言から



【有竹さんから】世一緒の全体像がよくわからないまま、しらこぼと笛を分けてほしくて行ったのがきっかけ。今はすいごご、水辺の市に行く感じ。世一緒の財政と人材の危機について、その人しかできないことが多いと思うが、各々の日常生活に世一緒が入ることで、いろいろな人が知り合えたらと思っている。

まず、財政と人材の危機ととらえていいか？財政はどこから予算が取れるかも含めて考えていいか。人材は新しい人が育っていないことと考えていいか。

【世一緒サポーター】私が来た10年前から危機はあり、なんとかこなってきたが、これまでとは違って、本当の危機と感じている。

【会員・市議】地域協議会で一緒に草取りや街歩きをして、それを行政に伝えてきた。ぼんやりと「お金や人が足りないのだろう」とは思っているが、詳しく聞けたら。

【会員】精神疾患の人は太陽光を浴びて農作業するのがいいと思う。いちばんいいのは、市役所での直接雇用がいい。市に要望を。

【理事】B型に企業が参入して障害者の取り扱いになっている状況とできるだけ社会に押し出していくという二律背反をどうしていくか。また立ち上げた人たちの高齢化の問題も。

【事務局長】本部事業でも水上花壇整備作業は年間100万円。ただ他施設と共同作業を成り立たせる上での、当法人の人的負担が年々増してきたので中止した。

【有竹さんから】越谷の世一緒で、すいごごカフェに克己さんもいて、ニュースも出してわかりやすく発信してゆくのはすごいと思う。各事業で別の意味で稼いでくると、どうセットでやってゆけるか。

【会員】就労支援センターのはしごを外されたのが問題。

【代表理事】人が求めている事業なら続けてゆけるはず。

【会員、市議】東越谷をなくすのではなく、継続させていくためにみんなで意見を出し合うこと。

【運営委員】せんげん台の就Bの人達が決意をもって地域の拠点としてやろうとしているのは大事。ただ東越谷をやめるとすごく形が変わってゆくように思う。どう前向きに集約してゆけるか。

【事務局長】障害福祉サービスが障害の程度、能力別で分けられていて、その分類に該当しないとお金が出ない。障害者と職員で飛び込み訪問して働くところを探すのはB型の役割じゃない。

【会員、市議】それは自治体の裁量で可能な部分もあるのか。

【事務局長】当会では実績を重ねて、その部分を拡げてきた。

【有竹さんから】前にいただいた資料に「一緒に街を創っていく」というのがあった。世一緒みたいな所が小中学校の通学路にあつたら。子どもたちも大人がああいうことをしていると思ってくれる街の豊かさを一緒に創れたら。

## グループ2の発言から



【運営委員】世一緒のHPを作成している。運営委員会のメモをいただいた。一つは世一緒の当事者の高齢化が進んでいる。私が出会った10年前は、就労支援でつながった障害者が20人くらいいた。その人たちが高齢化して、ニュース作るとき山下さんが危機って書いちゃったんで困ったなど。財政的な危機も含めてだと感じている。

【当事者事務局員】理事、事務局としていろんな雑用をこなしている。23年度、本部の事務局に来ていた人が、高齢化、重度化で生活に困って、だんだんいなくなり、メンタル的にもかなり落ち込んでいる。今後も職場参加にはこだわり、生活クラブや市民ネットとのつながりは大事にしながら、越谷の世一緒からせんげん台のB型中心に形を変えていかないと続けられないと思っている。いいアイデアはないが。

【たそがれ世一緒管理人】毎週木曜日にたそがれ世一緒をやっている。100円でご飯を作ってもらい食べている。ここ4年ほど顔ぶれが変わらない。自分も重度化し、夏場は涼しい家で閉じこもっていたいが、いったん街へ出てくると知り合いに出会うのはいいなど二重人格的。重度化も含め周りとは共有しかつ新しい人に加わってもらいたいが、案は浮かばず、みんなの話を聞きたい。

【会員】何も活動していないが、たまに道で出会ってご挨拶する。職場参加はどうなってるかと思ひ、ネットを見たら「危機」とあつたので。最近いろんな制度ができた割には世の中よくないと感じている。何もアイデアはないが、よろしくお願ひします。

【生活介護事業所施設長】職場参加の本部事業にしても就労B型事業にしても、重なることをいっぱい感じる。当施設の通所者も高齢化し、居宅で介護サービスを使う時は介護保険優先になる。転倒、骨折したら、病院に行つて、どんどん自宅から離れたところに行かされざるをえなくなる。

介護保険も障害福祉サービスも細分化され、その人のバックグラウンドを含めた支援でなく、来所している時間しかカウントされなくなつてきた。これまでのようにご近所としてつきあい続けようとするとな財政的にピンチになる。介護保険施設への入所までのつなぎ的に位置づけられている。特支学校新卒者はきれいな施設や工賃がちょっとでも取れる等の外見に惹かれ、大変かもしれないけど地域生活にチャレンジしようという者はいない。

【会員】生活ホームで暮らし、生活介護事業所に通っている。喫茶やウッドデッキ販売や会報製本作業などいろんなことをしている。生活ホームの同居人が一人暮らしに移り減つてきたので、自分もグループホームに体験入居して引越す準備をしている。

【世一緒当事者当番】世一緒の運営費用については自分では出せる状況ではないので難しい。いま自分は高齢者デイサービスで働いているが、地域の人たちとの交流が課題と感じる。働けようと思ひまいと、企業にお願ひして参加していく取り組みはやはり大切だと思ひ。

【世一緒高齢当事者スタッフ】病気もいろいろあり、入

院、通院を何度も繰り返したあげく、やっとデイサービスを週3日利用しながら、生活クラブとの活動や世一緒の活動に徐々に復帰している。

#### 【山田さんから】

就労支援センターを受託していた時はみんなの受け皿だった世一緒が、その後みんなの受け皿は形式上はできたかもしれないが、世一緒には私の受け皿であってほしいという気持ちがある。おもしろい、ほっこりする人生の話をしてくれる人たちの居場所がなくなってほしくない。今まで東越谷でやってきたことは、場所が変わってもやってほしい。そのための協力は沢山したい。

【理事、B型職員】東越谷に行っていた人が立ち寄れるサロンの場をせんげん台に設けるのも考えの一つだと話はしている。その場合、制度的な部分での財政の裏付けがないから厳しいが。ただB型に通っている人も、ちょっと離れて息抜きができる場所が必要ではないかと思っている、私も高齢だし。

【運営委員】職場参加を地域とか社会へ広げるNPOは残してほしい。そしてB型をやるなら複数の業務を行って地域・コミュニティに参加して地域を変えていくことが必要なんじゃないか。

【会員】今A型に行っている。その通所者の中で「今日たそがれ世一緒へ行くんだよね」といった会話がかわされている。彼らにとっても居場所なんだなって思う

【運営委員】やっぱりそういう場がみんなほしいんだね。

## グループ3の発言から

【理事、B型職員】「職場参加の危機」ということでいえば、私は経理をしているので、経済的危機がすごかっ



た。NPOとしてやってきたことが、制度が変わったことで難しくなってきたと感じている。

#### 【八藤後さんから】

具体的な関わりとしては、2年前に退職してから毎週すいごごに参加している。月刊わらじから原稿依頼があり、通読しているので、わらじの会がどういう関りがあるのか、少しずつわかってきた。

高齢化の問題は10年前からわかっていたと思うが、若手へのゆるやかなりレーズンがなかったのかなと素朴な疑問がある。

【B型職員】たしかに高齢化している。探しているし、募集もしてきたが今まで来た。あと、今まで経済的な危機があったが、少しずつ上向ってきた。ただ、利用者1人いくらという給付金で経営しているから、利用者が就職すると収入は減る仕組みになっている。利用者を常に増やしてゆかなければならないという仮題もある。越谷の世一緒でやってきたことをせんげん台でと言われて、これ以上何ができるんだろうと悩んでいる。

【会員】職場参加にこだわり続けたい。小学校の校長だった人が、養護学校が義務化されてみんなが学校に行けるようになったと喜んだが、今までなら普通学校に行っていたような人が養護学校に行くような状況が出てきて、あれっと思ったと話していた。公民館の青年学級に高等部を卒業して就労した人たちが来ていて、いろいろな苦勞をしていることがわかるが、いっぽうで普通学校に行った子どもたちもやはり苦勞をしている。どちらからも一緒にやってゆかなくては。

【会員・市議】「農福連携」を掲げながら、実態は雇用代行ビジネスという、インクルーシブとは逆の動きがひろがっている。市役所でも障害者雇用をしているといながら、別室で切手貼りをしているという分離の構造の例もある。イタリアで精神病院の撤廃が進められたとき、病院から追い出された元患者たちが一緒になって事業を立ち上げ、地域で働き、暮らしを作っていた。年月はかかっても、そういう取り組みに学んでゆく必要があるのでは。

【会員】職場参加は埼玉から出てきた言葉だから大事にしたい。「地域の側が障害者に参加する」というのもすごい。国連の総括所見では、日本の総合支援法の特

別就労を否定している。B型をやろうとすると、職場参加の理念と対立する。そういう意味で危機はあるんじゃないか。

**【生活クラブ地域協議会事務局】**日本は人を属性で分けるので、近くにいるのに無関心でいることができる。制度で分けられることで、制度からはずれるグループの人がdebitしまう。小学校では障害のある子がいて、いやおうなくかわらなくちゃいけないという状況があっても、成長につれて分けられていく。だから、ぼくらが始めたのは、一緒に梅を見に行こうとか、街を歩こうとか。そこから身近な制度を変えてゆく必要があると思う。

**【理事、B型職員】**かつて就学猶予という制度があり、養護学校に20歳の生徒がいて、ずっと家にいたので超肥満だった。当時の教員の合言葉は「在宅を出さない」。そのために共産党系の組合の教員たちは施設づくりの寄付を集めていた。就労という発想はほぼなく、少数の生徒しか就職できなかった。当時は職安がバスを仕立てて、既存の就職先を回った。数年後、A型、B型等ができてから、職安は関わらなくなった。年々A型、B型の比重が大きくなり、商業ベースで競争に拍車がかかけられている。

その中で、障害があってもなくても一緒に生活することにより、能力差、ちがいを含めてわかりあうことが大事だ。

**【会員】**本部事業というのは、たとえば日常ほとんどしゃべったことのない障害者が、聴き手にひきだされて生まれて初めてゲストとして語る・・・といったことが貴重だと思う。そういうことを、B型の事業の組み立てとしてもしていけないともったいないと思う。

**【理事、B型職員】**自活、自治という方向で、職員任せでなく、自分たちでやっていく方向を探っている。

**【生活クラブ地域協議会事務局】**県内で規模拡大をめざしている施設があり、市場で施設外就労を進めようとしている。前から働いている人たちは時給で働いているが、施設外就労の人は工賃。雇用側からは安上がりなので仕事が回ってくるが、期限があるものなど職員にしわ寄せがくる。現場から笑顔がなくなっていく。た

だ仕事を増やすだけでなく、職場にどう参画していくかが重要だ。

**【会員】**働くということについて、日本はいったい何を考えているのか。働く場を持ってない人がいっぱいいる。**【B型職員】**世一緒でも工賃を払うための仕事を一生懸命やっていると社会に出る取り組みが出来なくなる。内職も期限があると間に合わなくて、職員が残ってやっていたりする。そこをどうやっていけばいいのか。

**【会員、障害者団体事務局】**わっぱの会、共同連の人達は、能力差があっても賃金を平等に分け合うことについて、口角泡を飛ばして議論している。そういう雰囲気が良い。

**【理事、B型職員】**職場参加の活動はボランティアな部分が沢山あるが、活動の根幹を維持するお金は必要だからと就労移行支援事業に参入した。

しかし、3年目になったら、就労者が多くとも定員20人に対する比率が大きくないと報酬減という仕組みで、いっぺんに危機が来た。ではB型との多機能にと衣替えしたが、今度はB型と移行のそれぞれの職員配置をこまごまと使い分けできてないと減算ということになった。職場参加についていろいろ市に提言してきたが、けっきょく福祉サービスの一事業所として、制度に使われている。

ただ、その中で、これまでひきこもっていた人達がせんげん台「世一緒」に来て、職場参加に、地域参加にがんばり、互いに協力し合っている。ここでせんげん台をやめたらばらばらになってしまう。この先を本人たちで決めて行ってもらい、そういう意思を決める関係がここで育ててほしい。それが、私たち年寄りの今の役割だと思っている。



すいごごカフェ7/31-9/7 1時半のゲスト 	
<p>7月31日(水) 藤崎 稔さん わらじの会代表</p>	<p>おれのことばがわからない</p> <p>おれはがばんができないよ。学校でなにをならったの。あとはかばんができないよ。あとはのぞがかいた。看護婦さんは言葉がわからないから疲れました。</p>
<p>8月7日(水) 福島 里美さん 跡見学園女子大学講師</p>	<p>コミュニティ中心主義の心理学</p> <p>里親同士のつながりや支援機関の関り里親や里子自身の悩みや苦しみを通した立ち直り。特に「試し行動」の重要性の考察等。里親家庭と地域の心強い助っ人が語る。</p>
<p>8月21日(水) 日吉 孝子さん 世一緒ファシリテーター</p>	<p>はじめてコロナにかかって</p> <p>コロナで急に立てなくなって不安な毎日。障害者が障害が急に重くなっちゃうとビビっちゃう。みんなに助けていただいて、人のつながりの大切さをあらためて思う。</p>
<p>8月28日(水) 未定さん</p>	<p>未 定</p>
<p>この日は せんげん台 @すいごごカフェ @せんげん台「世一緒」</p>	
<p>9月7日(水) 吉原 広子さん デイサービス職員</p>	<p>てんかんと生きて</p> <p>てんかんを持つ人は人口の1割といわれ、症状もさまざまだが、社会の差別・偏見を受け、隠している人も少なくない。子ども時代に感じた差別、大人になり他の障害者や高齢者と共に悩みながら身に付けたことは。</p>

世一緒スタッフ日記 2

自分のしんきょう

水島 茂治

三月二十六日から、火木土週三日、かよっています。又週二日おふろに入っています。おくれましたけど、名前はさんすまいるといいます。そこで、午前中軽いストレッチをして、みんなで楽しくやっています、お昼をはさんで午後からゲームしたりしてあそんでいます。最近おばあちゃんと、本しようぎをしたりして、すごしています。相手は78さいです。自分は世一緒とさんすまいるさんで一生おわりたいとおもい。以上

# せんげん台「世一緒」です！



(野菜の収穫)

## 世の中、一緒だよ！

『障害のある人もない人も、  
ともに街へ、職場へ』



(ミカン祭り)

ご利用までの流れ

●そんなあなたにぴったりのB型です！

- 一般職場で体験・実習を経て就職、短時間就労しながら、職場の休みの日には地域での交流や生活づくりもしたい方
- 時間をかけて作業や施設外就労しつつ、職場体験・実習もしながら、自分に合った就労と生活づくりをめざしたい方

**就労継続支援B型「世一緒」**

- 生活リズム作り、居場所作り
- 楽しく取り組むグループワークで仕事体験
- さまざまな外部企業実習での職場体験
- 一緒に行う仕事探しや会社訪問
- <短時間(週20時間以上)、超短時間(20時間未満)で一一般就労しながら、地域と交流して、生活の場を広げよう！>
- 生活リズム作り、居場所作り
- ゆっくり時間をかけて積み重ねる社会経験
- 作業に応じて支払われる工賃収入
- <それぞれの個性と希望に合った就労をめざそう！>



「世一緒」は、あなたのもうひとつの居場所。地域・職場の人と触れ合い⑦生活の場を広げることで、「働く力」「生きる力」を育てるところです。



(市役所の横でも毎週野菜を売ってます)

(職場体験中です)



(せんげん台のお店の前で毎朝10時から地元の新鮮野菜売ってます)

世一緒はあなたの「働きたい、自立したい」を全力で支援します。まずはお電話か、ホームページからのメールで〜♪



NPOのシンポジウム



実習

就労継続支援 B 型事業所  
せんげん台「世一緒」  
〒343-0041 越谷市千間台  
西三丁目 1-16  
048-971-8038 (FAX 共)



NPOのシンポジウム

## 2024 年度会費、寄付ご納入ありがとうございました。

(五十音順、敬称略)

【正会員会費】会沢完、青木繁明、阿久津康仁、朝日雅也、有竹和子、内野かず子、大坂富男、大田ちひろ、大塚眞盛、尾谷英一、黄川田仁志、木下恭子、佐藤邦弥、清水泉、竹迫和子、田中利昌、谷崎恵子、辻浩司、辻彩子、友堅由紀恵、中山佐和子、橋本克己、長谷川颯、幡本洋子、原和久、樋上秀、平岩和好、正木敬徳、松田和子、松山美幸、水谷淳子、水谷浩志、森田譲二、谷塚祥子、山川百合子、山崎泰子、山崎有子、山田裕子、吉田久美子、吉原広子

【賛助会員会費】浅草秀子、及木聡、佐藤恵美子、並木理、野村康晴

【団体会員】

【寄 付】植田恵子、大槻由佳、小野達雄、田中利昌、野村康晴、長谷川颯、吉田久美子

職場参加ビュロー一世一様 立ち寄りカレンダー (2024年8月～10月)

2024年8月			2024年9月			2024年10月		
日中行事	ほか		日中行事	ほか		日中行事	ほか	
1日 木	たそがれ		1日 日			1日 火		
2日 金	10:00-17:00(2F)		2日 月	互島科除雪		2日 水	出番会議	10:00-17:00(2F)
3日 土			3日 火			3日 木	たそがれ	
4日 日			4日 水	出番会議		4日 金	10:00-17:00(2F)	
5日 月			5日 木	たそがれ		5日 土		
6日 火			6日 金			6日 日		
7日 水	出番会議		7日 土			7日 月		
8日 木	たそがれ		8日 日			8日 火	越谷水辺の市	
9日 金	10:00-17:00(2F)		9日 月	互島科除雪		9日 水		10:00-17:00(2F)
10日 土			10日 火	越谷水辺の市		10日 木	たそがれ	
11日 日			11日 水			11日 金	10:00-17:00(2F)	
12日 月			12日 木	たそがれ		12日 土		
13日 火			13日 金	10:00-17:00(2F)		13日 日		
14日 水			14日 土			14日 月		
15日 木	盆休み		15日 日			15日 火		
16日 金			16日 月			16日 水		
17日 土			17日 火			17日 木		
18日 日			18日 水	職場参加を阻む会		18日 金	10:00-17:00(2F)	生活クラブ共同除雪
19日 月	互島科除雪		19日 木			19日 土		
20日 火			20日 金	10:00-17:00(2F)		20日 日		
21日 水	職場参加を阻む会		21日 土			21日 月	互島科除雪	
22日 木	総合県交歩 初日		22日 日			22日 火		すすめる会事務局会議
23日 金	10:00-17:00(2F)		23日 月			23日 水		
24日 土			24日 火			24日 木	たそがれ	
25日 日			25日 水			25日 金	10:00-17:00(2F)	
26日 月			26日 木	たそがれ		26日 土		(県立大清透祭・産業フェスタ)
27日 火			27日 金	10:00-17:00(2F)		27日 日		(県立大清透祭・産業フェスタ)
28日 水			28日 土			28日 月		
29日 木	たそがれ		29日 日			29日 火		
30日 金	10:00-17:00(2F)		30日 月			30日 水		
31日 土			31日 火			31日 木	たそがれ	

職場参加ビュロー一世一様のイベント、活動、アルバイトに参加しませんか。ただし予定変更や業員になることもあるので、電話かメールでご確認をどうぞ！  
048-904-1819 (TEL&FAX) shokusan@deluxe.ocn.ne.jp

# す い ご ご

# FLASH



能回復や日常生活動作をイメージしやすいが、「全人間的復権」、「社会参加」を含めて考えたい。

## ●2024年6月12日 野島久美子さん(埼玉障害者市民

ネットワーク代表)



県庁のトイレにリフトを付けてほしいと思ったのは、大腿骨を骨折、トイレ介助に二人必要になったことからだった。アンテナショップか

つぽでも介助者が必要で、総合県交渉で今度障害者トイレができると聞いた時、管財課に「作るなら器械をつけてほしい。リフトがあれば一人でできるんですけどね」と柔らかく話した。ダメもとだったが、結果的には立派なものをつけてくれた。66年間、本当に怖いもの知らずでやってきた。全部わかってたらできなくて、何も知らなかったからここまでこれた。

## ●6月5日 志波美乃里さん(埼玉県立大学2022年度

卒業生)



学生時代、職場参加ビューロー一世一緒などでバイト。児童発達支援の仕事に辞め、これから能登の被災地支援に赴き、その後国内外を放浪する。きっかけ

は、昨年の年末から年始のインドでの経験。インドでの年越しは、心臓が冷え込むほどの寒さだった。他にも、ガンジス川での沐浴、川岸の火葬場などを見た。これからのことは不安ばかりだが、不安を抱いている自分を大切にしたい。人と分かち合いどんな繋がりが生まれるか、どういう結果になりたいか、考えてゆきたい。

## ●5月29日 長谷川奈都さん(在宅支援センター 夢

のつづき)



一般企業に就職後、野尻湖キャンプに参加。「車いすですぐ富士山に登りたい」という記事をみつけ、ボランティアに応募。柔らかいゴムのタイヤがついた車イスに重度障害の人が乗って、ボランティア達が引っ張り上げる。体が足に着くくらい揺れながらも、登りきることができた。そんな経験をして、自分は何をしたらいいか、どうやって人の役に立つことができるかと思った。そんな時、作業療法士という存在を知り、勉強を始めた。リハビリという機

## ●5月15日 吉原広子さん(高齢者デイサービス パー

ト職員)



去年初任者研修後、デイサービスで働くことになった。

利用者は豊饒としていて自立度が高く、コミュニケーションが取れる人が多い。長生きを目指しているのかなと思

ったけど、何人かはどう声かけしてもご飯を食べず、ご自分で死へ向かって行こうとしている。それは重い世界だと思った。施設長に進退問題を考えている、5月の最終日2日間がチャンスと言われた。やるか、辞めるかが、かかっているかのような言い方をされた。

仕事のやりがいはある。職員も一生懸命考えている人達。

## ●5月8日 植田恵子さん(フリースペースこしがや絵

本館代表)



結婚を機に越谷に来た。育児をしながら、どこかで何かしたいとモヤモヤしていた。子どもが幼稚園に行くようになった頃、新聞で一番ヶ瀬庸子さんの福祉文化学会を知っ

て勉強に行ったり、さいたまコープの二階で勉強会に参加したりしていた。主婦のお話し会でもあった。

いつでも開いていて行ける場所を作りたいと思い、その主婦仲間で「フリースペース こしがや絵本館」を作った。今年で25周年。障害のある人はもちろん、高齢者も子どもも色々な人と交流できる場所、だれでもいい、いつでもいい場所をぜひ、広めていきたい。

## ●4月24日 大野言弥さん(せんげん台「世一緒

通所/超短時間就労)



中学特別支援学級の3年生から不登校だった大野さんが、学校に行けなくなった理由は、先生が他の生徒に怒っている声が苦手だったから。今はワーカーズコレクティブ「キッチンとまと」の弁当注文の電話受付と弁当配達を週二日の超短時間就労として働いてい

る。週三日から二日になった理由は、注文を断るのが苦手で、代わってもらっていた非常勤職員の人が二日しか出て来られなくなったため。現地に行って、注文した人に弁当を手渡すこともある。非常勤職員の人にほぼ付き合っているだけと言いながらも、ありがとうございます、とかすかに言っていると話した。

# 世一緒スタツフ日記

またかお出しますので

越谷市 山崎 有子

6月16日、世一緒の総会のワークショップで、世一緒をなくさないで下さい、時々子ども食堂とかをやってください、おねがいします。

今までうんどうをやらなかったけど、友達にさそわれて、越谷駅の近くのカーブスに通い始めました。カーブスのたんとう者の人に、しょうがい者でもがんばっているとはめられましたので、これからはカーブスがんばります。

カーブスの人達は、すごくやさしい人達で、私も安心してかよいます。カーブスが大好きです。私はすこしけつあつが高いので、これからはけんこうとカーブスががんばります。花火大会にはさんねんながら行かないけど、また仕事の帰りかお出ししたいと思えます。毎日あついで、これからはどうぞよろしくお願ひします。

## ひがみ せんりゅう

二〇二四年七月十六日発行(毎月十二回 一九九四年八月二十四日第三種郵便承認) 発行人 埼玉県障害者団体定期刊行物協会 〒333・0851 川口市芝新町十五―九 アステール藤野1F



越谷市 樋上 秀

かちとった制度というやさしいあくまにほだされて、ただの利用者様に染まっていた学生運動が終わって、学生はただのサラリーマンになったのですが、障害者運動は、ただの利用者になってしまうでしょうか。

あじさいしっとりぬれてぼくひとり  
これからたそがれ世一緒はいつまでつづくかわかりませんが、たそがれ俳句を毎回よんでいこうと思います。

おさなごがライトラインを二度見して、青葉をゆらす風のきせつに  
開業から9ヶ月、最近のライトラインの営業を見ました。事故やトラブルもなく、盛況のようです。

雨か晴れか水辺にしてもたそがれる  
せんげん台世一緒で箱折りをやっています。畑をやっています。柳場

## 「し」のことを思いだす

いくつものしれんをのりこえ それぞれの答え方を  
いくつものりこえる ようにする。

いくつものしれんをのりこえ 思いでに流れる  
しごとを みれるようにする。

## きょうわあさから

7月11日きょうわあさからはたけにいってくさとりとミニトマトをとりました。  
かんの

## せんげん台世一緒で

せんげん台世一緒で箱折りをやっています。畑をやっています。柳場

## おもしろいです

今年の3月からせんげん台「世一緒」に来ています。毎日、楽しいです。畑の作業は、おもしろいです。  
KW

## 今の仕事のこと

新井 里佳  
今はとくようの老人介護しせつで清掃の仕事をしています。仕事は最初よりなれてきたので、みんなとおなじようにできるようになりました。  
職場のみんなとは仲よくできています。  
6月で4年目が終わり、今は5年目に入りました。  
この調子でがんばっていきたいです。

# NPO法人障害者の職場参加をすすめる会

〒344-0023 埼玉県越谷市東越谷 1-1-7 須賀ビル 101 世一緒内 (ハローワーク斜向かい)  
048-964-1819 (fax 共) shokuba@deluxe.ocn.ne.jp  
〒344-0041 埼玉県越谷市千間台西三丁目 1-16 せんげん台「世一緒」内(イオン並び)  
048-971-8038 (fax 共) dokkoisyo3116.yahoo.co.jp

